

令和4年度第2回「未知への挑戦」推進部会 会議録

1. 日 時 令和4年9月15日（木）午後1時30分から午後2時50分まで
2. 場 所 徳島県万代庁舎10階大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員（12名中8名出席、うちリモート3名）
金貞均部会長，青木正繁副部会長，植本修子委員，近藤明子委員，高畑拓弥委員，
平岡深愛委員，真鍋浩章委員，森貴浩委員
 - (2) 県
政策創造部長，各部局政策調査幹 ほか
4. 議 題
 - (1) 新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について
 - (2) その他
5. 議事録
 - (1) 事務局より新たな総合計画に係る県民等意見聴取の取組みについて資料1により説明
 - (2) 青木部会長より南部圏域部会の結果概要について資料2により説明
 - (3) 真鍋部会長より西部圏域部会の結果概要について資料3により説明
 - (4) 事務局より新たな総合計画総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について資料4・5により説明の後、意見交換が行われた。

（金部会長）

ありがとうございました。それでは資料に基づいて説明いただきました「長期ビジョン編」と「中期プラン編」について、委員の方々から御発言いただきたいと思います。14時50分を目処に、1時間くらいですが、委員の皆様どなたからでも結構ですので、御発言いただきたいと思います。リモートでご参加いただいている委員さんもお願ひします。はい。近藤委員お願ひします。

（近藤委員）

御説明ありがとうございました。いくつか気になったところがあって、若者からたくさん意見を聞いて頂いたり、アンケートを取っていただいて、新未来セッションNEOでも参加させて頂いて、たくさんの御意見をいただいているところかと思ひます。そういう御意見がどのように反映されているか、政策の中にどんな風に反映されているのかっていうことを示していくっていうことが、今後若い人たちがこの県政とか、この計画に対して興味を持つとか、しっかりとまた積極的に関わっていきこうと思ってくれる原動力になると思ひますので、このあたりのところは、丁寧にフォローをして頂けたらというふうには思ひます。この計画の中身について、先ほど御説明にもありましたが、新未来セッションNEOでも若者の意見として交通のところっていうのは、かなり今ちょっと弱いなというふうな御意見があるかと思ひます。私は車運転するんですけど、そういう人たちにとってはドアtoドアでどこでも移動できて、便利かなと思ひますけど、自分で車を運転して移動しな

いという人たち、移動できないということも含めて、交通弱者も含めて、そういう人たちにとってはかなり重要なファクターなので、この辺りは本当にしっかりと取り組んでいただきたいなと思います。交通のところはやっぱり日常の生活もそうですし、非日常のところでも、かなり重要な要素ですので、そこはメインの柱の一つとしても入れていただきたいなと思います。公共交通とかっていうのは、これまでバスとか鉄道とかいうふうな、これまで言われていた公共交通ということ以外にも、新たな公共交通として、新たな取組、結構前からありますけど、デマンドを使った移動というのもあるので、今までである公共交通の概念から少し出たところでもフォローしていくことで、効率化が図れるのかなというふうに思いますので、今の公共交通の概念プラスアルファで、新たな公共交通と言うところも検討していただけたらと思います。もう一点は、国の計画でスーパーメガリージョンという構想があって、中央中心にして、大阪、名古屋含んでですけど、そのあたり一帯っていうのを重点的に活性化させようみたいなのところになっているような構造にも見えるんですけど、そのときに徳島含めて四国が取り残されない。むしろそこにもしっかりと立ちあっているような体制づくりとかっていうことも必要になると思います。その時に、情報の交流と言うのは、今、結構しっかりと構築されているところだと思うんですけど、先ほどの話にあるようなこの交通というところ、そこでモノもヒトも移動して行くので、そのところでしっかりと仕組みづくりというのを考えないといけないなというふうに思います。スーパーメガリージョンしっかりとその中で、これは世界でもないような、大きな圏域でとてもいいんだっていうふうに国は言ってますけど、そこで徳島が、どういう位置づけにあるかっていうことをしっかりと考えながら計画を練っていく必要があるかなと感じました。まずはふんわりしたお話ですけれども、以上でございます。

意見ですので、御回答は必要ありません。ありがとうございます。

(金部会長)

パブリックコメントとか、それから高校生や社会人など、県民のみなさまから意見をいただいて、それが今回このような総合計画の長期ビジョン、中期プランにどう反映されているのかフィードバックさせないと、参加してもどのように活かされているのかが分からないですね。それについてはどのように考えていらっしゃるのかお聞きしたいんですが、いかがでしょうか。参加した高校生や学校向けとか、フィードバックさせるべきところにどのようにフィードバックさせているのか、またその計画などをお答えいただきたいと思えます。

(事務局)

意見聴取の結果につきましては、やはり意見を頂いた方にしっかりとフィードバックしていくということは、当然大事な観点でございまして、これまで県の方では、意見いただいた分はこう対応しますよという形でしっかりと一覧表にまとめて提示させて頂いております。今回はかなり幅広く意見を頂いておりますので、どういう形でフィードバックをしていくのかっていうのを今後検討させていただきまして、対応させていただきたいと考えております。以上でございます。

(金部会長)

今回、新未来セッションNEOに参加した高校生、彼らは本当にこれから徳島を担っていきける若い世代だと思いますので、特に学校様のところには、学生からこのような意見が出て、これがこういうふうには反映されていますよとしっかり伝えて、そこに参加した生徒たちの体験につながって、自信を持って私たちも参加して行きたいという意欲につながればいいかなと思います。あとはよろしいでしょうか。それでは青木委員、よろしくお願いいたします。

(青木委員)

青木でございます。近藤先生に言って頂いたので、2点だけ私も申し上げます。まず対話集会・新未来セッションNEO・2022に御協力いただいた皆さん、また御参加いただいた皆さん本当にありがとうございました。近藤先生にも言って頂いて、今の御意見と同じでございます。やっぱりフィードバックして、多分ポイントはね、高校生とかの言った意見がどうなったかっていうポイントだけなんです。これは僕の長くこの部会というか、政策に関わる人間の一人としてはですね、じゃあせつかく言った意見が本当に県政政策のどの部分に、どういう風になったんだといったことを、やっぱりしっかりとフィードバックする必要があるという風に思っています。ただ、大きな意見の中で抽象的なもの、60年頃どうするかというと、それはこうなります、こうですよっていうのは当然言いつらいということは充分理解しております。ただ、そういった形をやっぱりとること、またフィードバックする形をすることによって、先ほど部会長がおっしゃっていただいたとおり、参加する意欲であったり、じゃあ次回もやってみよう、後輩にもやったらこうなるんだよと言ったことは、やっぱりしっかりと県政施策の中へ埋め込んでいく、また入れていく、よくいうのは見える化ですね。例えばこういう冊子等を作ってですね。やっぱりしっかりとそこにこういうのが、高校生の意見ですよ、というのがあった方が多分いいかなというふうに、これは個人の意見ですけども思っております。ただ、新未来セッションNEOについて、毎年参加してて思うのは、やっぱり若い世代の方もしっかりと好きのところ、よくなって欲しいところとかのポイントをしっかりと意見言える方々が多いかなと思っております。そのためには私が考える重点項目としては教育ですね。やっぱり教育部門は外せないだろうというふうに考えてございます。当然、資料4の将来ビジョンの柱の中にも多分属するんだと思います。やっぱり、大きい流れでいくと教育部門というのは次世代、それから未来を作るものに対しての必要性は必ず、私もこの歳になると常々思っております。若い頃は自分が良かったらええわというような気持ちが正直あったんですけども、そろそろ次世代の、私防災活動してるんですが、次をちゃんとやっていかないと、という心意気がありますので、教育という観点は今後2060年でもしっかりとビジョンの中へつなげてほしいと思っている意見の一つでございます。もう一つはですね、南部圏域部会の部会長も務めさせていただいたので、南部圏域の意見としてはですね、さきほども報告をさせていただいたんですけどもトータル的に言うと、やっぱり大事なのは地元愛を育てることなんです。南を好きだという地元愛。やっぱりしっかりと南部愛を高めるような施策であったり、また育みであったり、自然の育みが活かされるような、施策へ反映して欲しいと思っております。せつかく今回、圏域ごとの部会を作ったので、圏域部会ごとも、こうい

った施策がこうなったというのも同じようにフィードバックして欲しいと言うのが、私の個人的な意見だと思っております。こういった圏域ごとに分かれてするというのは非常にいいかなと思っております。やっぱり南は南の良さ、また活かし方、西部は西部の活かし方、東部は東部のやり方っていうのがあると思います。やっぱりそれはトータルで含めて、総合計画というのは僕は成り立っていると言うふうに考えてございますので、各地域、各東西南北すべての御意見できるだけ聴取をして、より良い総合計画をつくってほしいなあという願いでございます。発言は以上でございます。

(金部会長)

ありがとうございます。そうですね、圏域ごとに課題も違って来るだろうし、その地域ごとの特徴っていうのも違って来るので、そういったものがしっかりと反映されて、地域ごとの発展につながるようなものになればいいと思いますね。

では次いかがでしょうか。はい。森委員お願いします。

(森委員)

僕も意見ということでお願いしたんですけど、まずはこの資料取りまとめ、もしくは説明もお聞きしましたが、大変な御苦勞をかけているかと思えます。この資料について分かりやすく説明していただきまして、本当にありがたいと思っております。僕も新未来セッション NEOに参加させていただきましてですね、今の高校生、賢いですよね。すごく地元愛についても深く持っているというのは、すごく身近に感じることができました。資料1-2にもあるように、高校生とか大学生とかも2割、1割少々は、一回県外出ても戻ってきたいっていう意見がある。またかたや36.3%は、県外で住みたいっていう意見もある。若いのが故に県外で住むっていうのもありだと思いますが、この日本で全体で人口が減っていくなかで、どの市町村、どの県、どこでも人口の取り合いが始まっていると思うんですけども、徳島県はやっぱり徳島県から出た人を、また徳島県に呼び戻すっていうことができるのが、僕は一番いいんじゃないかなと実は思っています。そのために先ほども意見にありますように徳島愛、これを植え付けて県外に送りだして、県外からいろんな知識もしくは技術・技能を持って徳島に帰って来ていただいて、この人口が減ることによって、いろんな産業であったり、習わし、風習いろんなものありますけれども、お祭りだったりとか、にぎわいが減ってきたとを感じるんです。徳島で住んでいたことがあって、いろんな知識を持って、戻って来ていただけるような、こんな政策をこの計画に含まれたらすごくいいんじゃないかなというふうに感じています。以上でございます。

(金部会長)

徳島愛をしっかり植え付けて、それでもっと広いところで経験を積んで徳島に帰ってきて、地域で貢献する。とっても良い考えですね。それができるように、どのように政策を考えていくのかということなんですけども。

ではリモート参加の委員さんにもお願いしてよろしいですか。

(平岡委員)

よろしいでしょうか。平岡です。

先ほどから、青木委員や近藤委員からもありますように、私も同じように意見として伝えさせていただきたいんですけど、やはりその新未来セッション NEO っていう取組って本当に素晴らしいし、他県に向けても世界に向けても発信できるような、とても画期的なことをしていると思うんですよね。しかし、やっぱりここで参加した方々が、その後、これをどう消化して行くのかというところが一番大切なのかなと思ってまして。こちらの裏方の方では、この意見はこういう形で政策に当たっているという過程が見えますけれども、参加していただいた方々からたぶん今のところ見えていない面が多いと思うんです。去年までに頂いた NEO の意見や、定まっていた総合政策の中でも、どれが NEO から抽出されている意見なのかっていうところとか、それを、高校生たちにしっかりと戻す作業っていうところは、見られなかったなと思ってました。もちろん、その各部署で、それぞれのその担当の中で、しっかりと伝えてくださっているのはわかっているんですけど、やはりこれを、それこそさっき青木委員がおっしゃったように、じゃあ後輩にどう伝えていこうとか。例えば、高校生で参加した人が大学生になった時にどういうふうに思い出してくれて、それを県政の参加につなげていくかっていうところでは、このフィードバックを一つのパッケージとして、どうやって彼らに伝えていくかっていうところまで含めた形での新未来セッション NEO が今後も継続されていけば、きっと今のところたくさん改善したりとかすることがあると思うんですけど、続ければ続けるほど楽になっていくってところだと思うんです。子供たちや教育現場の方で回してくれるっていう形にもなっていくと思うので、しっかりこのフィードバック作業とか、そのどういうふうこれが広がっているのか、それこそ見える化というところをぜひ力入れていただきたいなっているのと、少し新未来セッション NEO に関して、もう一点個人的な意見を付け加えさせていただきたいんですけど、それは今の新未来セッション NEO はやっぱり、高校生からの意見聴取がメインになっているっていうところがあるので、もしこれをもう少し発展させられるのであれば、やっぱり義務教育課程の子供たちの意見を吸い上げる機会っていうのも必要かなと思ひまして、これは2つ意義づけがあるんですけど、一つはやっぱり今の SDGs の流れのなかでも、子供にやさしいまちづくり、CFCI という考え方が浸透してきていて、何歳であってもやっぱり子供たちもひとりの市民として、彼らの意見を取り入れていくっていう政策が全国各地で、日本の中でもその北海道のニセコ町であるとか、奈良県奈良市とかが中心となって、今行われている事業があるんですけど、そういった形でやはり義務教育の子供たちもしっかり彼らの意見を持っているので、じゃあ彼らなりの郷土愛をしっかり持っている子供たちがたくさんいるので、そういった子供たちから意見を聞く機会っていうのも作ってあげればいいなと思うのが一つと、やはり義務教育の子供たちは保護者が必ず後ろにいますので、彼らを巻き込むことでその保護者世代とか、ひいては祖父母世代も巻き込んで政策をある意味で宣伝できるというか、そういう風に徳島県は意見を取り入れる取組を行っているっていうのを、より幅広い世代に変えていくっていうので、義務教育家庭の子供達を巻き込んでいくっていう風に追加していただければよりいいかなと個人的に思っています、以上です。

(金部会長)

青木委員、どう思いますか。

(青木委員)

ありがとうございます。御意見ありがとうございます。確かにおっしゃる通りですね。新未来セッションNEO、確かにまず一点目の高校生中心だといった視点ですね、それは確かに、高校生や、今回社会人の方々に入って頂いた混合型と言われる形だと思うんですけども、当然、総合計画全県民だという視点から言うと、当然その義務教育の子供たちも入ってくる。それと一つ、ポイントとしてはその親世代とかね、保護者世代という発言があったんですけども、やっぱり僕の世代みたいなのも、やっぱりしっかりと徳島のことをしっかりと知って、やっぱり再度学ぶことが大事だろうと言うふうに個人的には、先ほどの御意見に同意したいなと思っております。それと、新しい形でのこの対話集会・新未来セッションNEO、もう何年になるのかな。

(事務局)

はじめたのは、平成30年になります。

(青木委員)

平成30年からしてるんですよ、実はね。これ立案して私と近藤委員から始めたと思うんですけども、確かにいろんな意見を収集する為の、県政施策の中でやらせていただいた経緯が正直ございます。いつもですねやればやるほど当然いろんな課題点とかこういうやり方、また新しいやり方・手法というのは今後も当然取り入れていくべきであると思うし、やっぱり、次回する時はよりよいものにして欲しいなあと言う個人的な意見を踏まえて発言とさせていただきます。答えが出ませんが、急に振られたので。じゃあ、近藤委員にも聞いてみてください。

(近藤委員)

平岡委員が本当におっしゃったとおりで、やっぱり子供達から自分の子供がこんな事に関わったんだよっていう自分ごととして、家族として捉えていただけるという意味では、本当に子供たちの良い経験にもなりますし、プラス日頃使う力っていうのはかなり大きいなと思いました。なかなか小学生とか幼稚園の子達にどういう風に聞いたらいいのかなっていうその手法は、プロの方々に御検討いただいて、ぜひともそういうところも実現していただけたらと思います。子供たちの成長にとっても、とてもいい経験になるかなと思います。以上でございます。

(金部会長)

最初に、徳島県について広報する資料がありましたよね。そういうところから徳島を知ってもらうことにつながるので、意味があるのかなと思うんですけどもね。ヨーロッパではまちづくり活動として、小さいときから地元の建築家などの人たちを講師に呼んで、まちにでかけ、実際体験しながらまちについて考えるようなことをやっているんですね。

本当に小さいうちに小学校、中学校からそういう風にまちについて関心を持ってもらう、まちをより良くするためにどうするかということを中心に考えさせるようなことが必要であって、それは本当に教育の一環でもありますし、また地域の教育として、ぜひやってもらいたいことでもありますね。この新未来セッション NEO がその一つの役割を果たせる有意義なことになるかなというふうに思いますよね。御意見ありがとうございます。ではまたほかの御意見どうぞよろしくお願いします。

(高畑委員)

よろしいでしょうか、高畑です。よろしく申し上げます。

私の方からこの場で答えられるか分からないですけども、具体的などころの部分で言った時に、教育の部分のお話が出ていると思うんですけども、個人的にはいろいろな出前事業であったり、今徳島のデュアルスクールであったりとか、サテライトスクールで新しい形を作って、個人的に徳島から全国に先んじて新しい教育をして行くんだみたいな施策を民間側から事例を作って、一つお手本となるようなものにしていきたいなという活動をしてるんですが、一方で学校現場とかと接点を持つ機会がすごく多くある身として感じるのが、いわゆる GIGA スクール構想が進んできて、一人一台タブレット端末と言うところがもうほぼほぼ完了していると思うんですけども、この先の部分で言った時に僕が目の前で見てる事例で行くと、たまたますごく優秀な先生がいるから、それを活用できていると思う一方で、そんな能力を持っている先生達ばかりではない中で、ICT の支援員制度とかあるとは言いつつも、それも実際ワークしてるのかがあまり見えて来ない。逆に言えば回ってますと徳島全県で ICT 支援員を活用して、ものすごく推進されてますっていう状況であればすごく安心する一方で、まだまだ課題があるのかどうかというところがお伺いしたいところですね。で、今回長期・中期計画とか長期的なプランにおいても、その部分ですね、教育の DX の部分で具体的な施策であったり、もうすでに終わりであったり、マイルストーンがあるのであれば、ぜひ教えていただきたいなと思っています。お願いいたします。

(教育委員会)

教育委員会です。GIGA スクール構想ということで、一人一台端末ということで、整備は高校まで進めているところでございますが、研修についてはですね、確かに委員さんが仰ったように、総合教育センターの方から講師を派遣したり、また ICT 支援員さんを活用しているんですけども、確かに個人差によるところが非常に大きいと思います。好事例について収集しまして、それをホームページとかに公表したりとか、それを研修で引き続き横展開するだとかということはしているんですけども、さらに進めていかなければいけないと思っています。以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。まだまだこれから、もう少し積極的に進めていかないといけないような状況ではありますね。

(高畑委員)

ありがとうございます。これは意見というところなんですけれども、おそらく教育 DX って文脈でいくと、GIGA スクールも forALL っていうことで、すべての子供たちのためについてというような文脈ではある一方で、そこに良質ないろんな機会、教育・学びであったり、機会の創出っていうところがやっぱり先生方に、余裕があるとか創造性を持つ時間があるっていうところはかなり依存してくる部分があるので、今の状態ですべてまた更にやってくださいっていうのは学校現場としてはかなりきついただろうなというところはすごく感じる部分があるので、ぜひこの GIGA スクールだったり、教育 DX の文脈を描くのであれば、ふるさと喚起での教育をもっとやりましょうっていうところも、もちろんやりたいことはおありだと思うんですけども、それ以前にその教職員の DX、まさに業務のペーパーワークも含めてですし、極端な話、保護者対応とかにすごく追われたりするみたいところでそれで鬱になっちゃう先生もたくさんいる中で、そのコミュニケーションとか、いろいろな DX も含めてですけども、業務の効率化というところから着手するっていうのは非常に重要なんじゃないかなと思っています。学校の先生たちの働き方が本当に良くなれば、自ずとそういう我々がもっとこういうふるさとの教育やったほうがいいよねとか、地域と連携したほうがいいよねっていうようなことができるような実感が生まれてくると思うので、是非徳島起点としても、生徒のコンテンツの充実化みたいなのところだけじゃなくて、一番重要な教育のプロである先生達に、より創造的な時間を生み出す職員室 DX とか、具体的なその施策にも発展できたらいいかなと思っています。よろしくお願いします。以上です。

(金部会長)

そうですね、本当に先生方が子供に向き合う時間をもっとつくるべく、事務的な業務を含む色んな点で効率化を図ることはとても大事なことだと思います。そのためにはたとえデジタル技術があったとしても、それを使いこなせる先生でなかったりすることもありますので、その辺をいかに支援していくかということと、業務の効率化に DX をどう活用できるかという部分も考えていけたらと思いますね。

ほかよろしいでしょうか。真鍋委員、お願いします。

(真鍋委員)

ありがとうございます。本当にこの資料作りから、いろいろ御尽力いただきまして、ありがとうございます。私も色々御意見を聞きながら、そうだなあっていうすごく感心させられる事ばかりです。また、西部圏域部会でも、新未来セッション等々が開催され、私自身、初めて参加させていただきました。その中で、いろいろ意見を聞くと、高校生たちは一生懸命向き合い、地域の事を考えて参加し、意見してくれているなということです。もっと無関心でネガティブなのかと思っていました。

西の三好地区では、高校生によるまちづくりというのを池田高校を中心にやりたいなということで、商工会議所で働きかけているところなんですけれども、先ほどお話にあったように本当に先生方も忙しいので、趣旨に賛同は頂いても進まないのが現状です。それに対して先生方の働き方改革みたいなのも合わせてやると、もっともっとこちらが色んなしたいことに対して、先生方ももっと協力をして頂いたり、お互いに良い関係になるん

じゃないかなというふうに思っています。

南の方も、ワーケーションとかサテライト、デュアルスクールといろいろやられています。やっぱり西の方もおそらく植本さんも思われていると思うんですけども、そういうことを注視しながら、進めていくことができたかなというふうに思っています。本当におっしゃったように南愛ならぬ、私たちも西愛を育てたいというふうに思っているのです、それぞれの地域の特性、特色を、小さい頃からそこで育っていると本当に気づかない、気づかずに大人になってしまふところがあるので、お話にあったように義務教育のときから問題意識を持って取り組むことで、大人も含めて気づきを得られるし、繰り返すことで成果も生まれると、良い西阿波愛のはぐくめる裾野の広い新未来セッション NEO になるんじゃないかなというふうに思います。すみません、まとまっていませんが意見です。

(金部会長)

ありがとうございます。リモート出席の植本委員さんお願いしてよろしいでしょうか。

(植本委員)

真鍋さんと本当に一緒に西からこちらに参加させて頂きつつ、多分息子が同級生ぐらいの同じクラスかもしれないぐらい近いんで、意見も大分教育に関しては似通ってくるかなというふうに思うんですけども、一つは新未来セッション NEO の部分は本当に意見を吸い上げるという意味で、ぜひ続けられたらいいなと思うような、すごく価値のある時間だと思っています。具体的には資料にまとめていただいているので、私が何ということもないんですけども、教育の部分に関してはいくつかございまして、一つは西部の意見として資料を拝見したところ、バカロレアの話も出てくるぐらいに本当に皆さん知識がおありだなというふうに思いました。質問したいこととして、一つはバカロレア認定校に関する施策みたいなものは進んでいるのでしょうかということが一つです。きちんとバカロレア認定校になっただけではなくて、それを育てていくという大変な作業が、これからもし取った場合は大変だと思うんですけども、でもあることによって、その学校を目指して、移住してくるぐらいの魅力があると思いますし、この大自然の中にそういった機能を持つことで、すべてがカバーできている類稀な学校という風な形が、理想に近いかもしれないんですけども、こういう期待ができる政策じゃないかなというふうに思っています。それと、あと私この3月で任期を終えたのですけれども、教育委員に在籍しております、その時にやっぱり DX とか、働き方改革という DX とかのデジタル化、GIGA スクール構想という言葉はもちろん、キーワードとしては出てくるんですけども、その度に働き方改革が、ちぐはぐなものになってるというか、それに取り掛かる先生が働き方改革に則ることができないんじゃないかという意見をくださる先生がいて、余計な時間を使わせないように、これから大変なことにならないように、今の現状維持がいいみたいな、信じられないんですけど、そういう言葉も出てきたりするようなこともありました。なので、教育に関しては本当に心配かなというふうに実は思っていたりします。特に西のほうですと、かなり東と距離感もありまして、何か意見みたいなことがやり取りがどの程度されているのかなって思ったりとかっていう部分も、私は一父兄の立場での教育委員でしたので、拝聴して自分の中で取り入れて吸収するみたいなことをやってきたんですけども、やっぱ

りそこは実際、その地域にいるお母さん方もそんなにいろんな情報が入ってくるわけではない中、心配かなという声はよく聞きます。

私この資料毎回拝見させていただいて、すごくよく出来ている資料だなというふうに、かねがね本当に恐縮しているんですけども、この資料は、私はデザイン思考という思考の部分結構専門にさせていただいているんですけども、観察して意見を吸い上げていて理想も掲げていて、思想も持っているんですけども、具体的な施策を実行するという部分が、やっぱりどこかにあったらいいなというふうに思ってしまうところがあって、もちろん私がかもともと広告業界の人間でして、どうしても最後は費用対効果を見られる立場にありましたので、なんとなく理想があって思想があってその先、じゃあ具体的にどうするみたいな部分って問われるような、つい考えてしまう癖もあるんですけども、そこについては、どんなプロジェクト化をするとか、この理想を実現させるには、どうしたら良いかみたいなのところって、どういうふうにお考えなのかは聞いてみたいなのというふうに思っています。よろしくをお願いします。

(教育委員会)

一点目のバカロレアの関係なんですけれども、いま把握してなくて申し訳ないんですけど、多分大学進学のための認定制度かと思うんですが、すみません。

あと2点目の働き方改革、DX、GIGA スクールで働き方改革に逆行しているのではないかとといった意見なんですけれども、DX がはじまる若干前に、同時並行的ではあるんですけども学校業務支援システムというのをいれておまして、メールでありますとか、校務処理を行うことができる業務支援システムを入れておまして、逆に減っているというところもございまして、確かに生徒を教えるなかで、さきほど委員が仰られるように教える技術を習得しないといけないというのがあるんですけど、一方でDX化することで業務を削減している面もありますので、しっかりやっていきたいと思えます。以上です。

(金部会長)

良い技術があっても、それに慣れるまでは時間がかかったりするんだけど、やっぱり慣れてしまうとそんなに負担にならないわとか、時間がこれまでの半分になったとか、そう感じられるようになれば、いちばん仕事の効率化につながりますけどね。新しいことに関する挑戦とか、その辺のことが鈍いとか遅れるとか、そういうことはいろいろあるかもしれませんが、でもこの世界の状況に合わせて、どんどん対応していかないとやっぱり遅れてしまったり、それが教育にまた悪い影響を及ぼしたりすることがあるので、学校現場においては先生方が新しい技術を取り入れることに、真剣にまた積極的に取り組んでいただきたいというのはありましたね。でもやっぱり最初の時期は時間がかかって不便だなと、これまでどおりのやり方がいいわとか、それが人間本来の考え方もかもしれませんけどね。でも、学校現場はどんどん世の中の変化に歩調を合わせ、または先へと行かないといけないことも、教育するうえで要求される場所かなと思いますね。そういった姿勢の態度の転換、まず心からのその意識の変化ということ、改革ということが必要だと思うんですけどね。もう一つあったと思うんですけども、デザインについてよろしいですか。

(事務局)

今回の計画の中で、具体的政策というのは反映というところにつきましても、御質問頂いております。今回の総合計画の策定につきましては、現計画でもそうではございますけれども、長期ビジョン、それから中期プラン、また行動計画編という形で三層構造の形で作成をするということを考えているところでございます。委員がおっしゃいました、具体的施策の部分につきましては、また今後4年間でどういうことに取り組むのかという具体策を行動計画編の中で設定がなされていくという形でございます。今回御議論いただいておりますところにつきましては、長期ビジョン、中期プランということで、この辺りしっかり押さえた上ですね、今後具体的施策をどうしていくのかということ、今後検討していくという形になっているところでございます。以上でございます。

(金部会長)

どうでしょうか。

(植本委員)

ありがとうございました。私が後半に申し上げたものに関しては、確かにまだ行動計画できてないので、そちらのほうで、いろいろ伺えたらなというふうに思っています。教育の方に関しましては、バカロレアに関しては調べていただけたらなというふうに思っています。それはもう今この時代にいち早く取り組んだらいいんじゃないかというふうに思うような認定なので、ぜひ調べていただければと思います。金部会長に言って頂いた、意識の問題かもしれないということは私も思っているので申し上げたので、もしその三好市の教育委員の中と何かやり取りとか、そういったことはあるのか、私もわからないですけれども、何か解決策というのがあるのかなというふうなことを伺えたらと思っているんですけれどもどうですか。関わりがあるのかだけでもいいです。あまりないっていう感じですかね。関係してこないですよ、きっと。

(教育委員会)

三好市の教育委員さんとの接点は、それほどないと思います。教育委員会とはあるんですが、委員さんと直接のやりとりはないと思います。

(植本委員)

そうですね。分かります。

もう一つ言い忘れたことが一つだけあります。すみません、時間取っていただいて。デュアルスクール、高畑さんに毎回この会議で会うとよくお話させていただくデュアルスクールとかもぜひ本当に美波のあわえさんが担当されていると思うんですけれども、ぜひ地域ごとに担当があったらいいんじゃないかなというふうに思っていますので、何か御検討いただけたら、一緒にやりやすいんじゃないかなというふうに思ったりしています。よろしく願いいたします、以上です。

(金部会長)

はい。ありがとうございます。じゃあ、ひととおり委員の皆さんから御意見を頂きましたけれども、この際これだけは言いたいということがありましたら御発言お願いします。

(平岡委員)

すみません、よろしいでしょうか。先ほどの意見の中で伝えたかった部分を忘れていたのですみません。今更ながら補足させていただきたいんですけれども。まずですね、新未来セッションNEOの評価がすごい大事になってくるっていう話の中で、お示しいただいた資料の1-3ですかね、オープンとくしまe-モニターアンケートの中でも、問3になぜ県政に関心がないのかというところで、しっかり数字として、やっぱり個人の意見が県政に取り入れられると思えないっていう部分がしっかり出てきているっていうのは、これは一つ大きな指標になると思うんですね。やはり自分の意見が反映されていないと思っているから、県政へのコミットが少なくなったり、県への期待が下がったりっていうことが今実際に起こっているっていうことがもうエビデンスとして示されているのが、このアンケートなのかなと思ひまして、なので新未来セッションNEOに限らず、いろんなところで、その実際に県民の方から吸い上げた意見を本当に反映していますよっていうものを、ぜひせっかくやっているの、力を入れていただければ本当にありがたいですし、県民にとってもしっかり県は仕事してくれているというか、それが伝わるので、本当にその県民に伝えていくっていうところにいろんな方法があると思うんですけど、そのテレビとか広告、SNS、いろんな方法があると思うので、その発信をして行くっていうところを少し今まで以上に重点を置いて、していただければ、その相乗効果でどんどん県政も進んでいくのではないかなと思うので、このアンケート結果を付随してお示ししたかったのが一つと、もう一つはすごく細かいことで、また新未来セッションNEOに話が戻ってしまうんですけれども、そのさっき言ったじゃあどうやって今回参加した、高校生たちが次の世代に引き継いで行くのかっていうところで、例えばっていうことで一つ提案させて頂きたいことがあります。例えばTwitterで「#新未来セッションNEO」で検索すれば、これまでの流れが見えるであるとか、それこそ県のアカウントからどういう風に反映されたかというツイートが出てくるであるとか、参加者の高校生たちの意見が、そのツイートをたどっていけば、どんどん見えるよとか、そういうそのSNS独自の機能を使って、ハッシュタグであるとか、例えばインスタグラムとかだったらタグ付けであるとか、そういう風に新未来セッションNEOっていう単語を知っていれば、すべての情報に繋がるっていう形にさせていただくと、本当により幅広い人に伝わっていくと思うので、そういうことが県外の人に向けても伝わっていきますし、それをみて徳島県そんないい取組してるなら、もうちょっと調べてみようっていう風に関心を持ってくれるきっかけにもなるかもしれないので、ぜひそういった本当に一言で言うと、情報発信っていうところなんですけれども、その部分を今まで以上に、この力を入れていただければと個人的に思っています。本当にそれだけです。ありがとうございます。

(金部会長)

ありがとうございます。発信ツールを多様にして、もっと多くの人の目に届くようにし

ていましてという提案だったと思います。とても大事な意見だと思います。他にはよろしいでしょうか。

資料がものすごく上手にまとめられていると委員さんの方からコメントがあったと思うんですけども、本当に大変な作業だと思いますし、だから県庁の明かりが夜遅くまで消えないような状況が出てきているのではないかと思いますけれども、お疲れ様です。

先ほど教育に関してはお話がありましたけれども、特にこれから大事にしていけないといけない考え方としては、そのダイバーシティ社会に向けて、いかに多様なものを、例えば、学校現場で行われる人権教育、人権意識の向上というものを、つまり性別とか年齢とか国籍とか人種とかの違いに関わらず、人々は平等であるという人権意識の向上というのが、まずダイバーシティ社会の成立に向けて重要だと思います。もう一つは、国際意識の向上というもの、つまり世界の中の日本、日本の中の徳島、つまり世界の中での徳島というふうな意識がないと、自分自身を客観視することができないのかなと、だから国際的な教育、それから人権教育という部分がダイバーシティ社会に向けて根本となる部分かなと思います。だからこそ、これからのことを考えますと教育が非常に重要だと言えます。

ではこれで意見交換を終わりたいと思います。

本日欠席されていますフェネリー委員から、すでに御意見を頂いておりますので、事務局から説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

それでは本日御欠席のフェネリー委員さんから事前に3点ほど御意見をいただいておりますので、御報告させていただきます。一点目が、交通の課題を克服した住みたくなるまちづくりにつきまして、自動車やバスの経営難が課題となっているが、子供からお年寄りまで車がなくても安心して移動できる手段の整備に取り組むべきという御意見でございます。

二点目は子育て支援について、金銭面での負担に加え、仕事の継続が難しいなど、特に母親への負担が大きくなっている現状があり、その打破に向け社会レベルでの変化が必要と感じるとの御意見でございます。三点目は豊かな自然を守る環境整備と観光業の振興や、DXとGXの取組に期待しているという御意見をいただきました。いただきました御意見につきましては、県民等からの意見聴取の中におきましても、多く御意見をいただいているところであり、新しい計画の中でも重要な要素であるというふうに考えておりますので、今回いただきました御意見を踏まえまして、今後の肉付けを行っていきたいというふうに考えているところであります。以上でございます。

(金部会長)

ありがとうございます。ではこれで意見を聞く時間は終了したいと思います。

なお本日の部会の審議の経過及び結果については、徳島県総合計画審議会部会設置規定第3条第2項の定めにより、総合計画審議会に報告させていただきます。県においては委員の皆様からいただいた貴重な御意見や御提言をふまえて、新たな総合計画の策定に向けた作業を進めていただきたいと思います。なお本日の会議の内容について、疑義等がございましたら後日でも結構ですので、事務局の総合政策課まで御連絡いただけたらと思いま

す。

本日、皆様には非常にお忙しい中、それともものすごく暑い中、御足労いただき、本当にありがとうございました。最後に事務局から何か連絡事項等ございますでしょうか。

<事務局説明>

- ・本日の会議の公表について、事務局で取りまとめた上、御発言頂いた各委員に確認頂いてから、発言者名も入れて公開したい。

以上